

中 学 校

- (1) 総合的な学習の時間
- (2) 総合的な学習の時間
- (3) 特別活動（学校行事）
- (4) 特別活動（学校行事）

1 単元名

「森林のはたらき」

2 ねらい

○地域にある森林を調べるなどして、防災・減災に役立つ森林の働きを知り、これからは自然を大切に守り、育てようとする意欲と態度を養う。

【防災教育の観点】

○防災に役立つ森林の役割に気づき、これからの生活の中で自然を大切に守り、育てようとする気持ちをもつことができる。

3 指導計画

(1) 事前指導

森林の現状と防災に関わる働きを、文献やインターネットで調べる。

(2) 本時の指導 (2時間)

①地域にある森林を訪れ、先輩たちが植樹した木々や整備した階段などの山道と間伐作業を見学し、倒木の解体作業に取り組む。

②実際に森林で作業し、森林組合の方から森林の働きについて説明を聞くことを通して、防災に関わる森林の役割に気付くことができる。

(3) 事後指導

森林を形成する樹木の種類や特徴、我々の生活につながる森林の役割を学ぶ。
(出前講座)

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 玄関前に集合し、班でそろって学校林へ移動する。 2 入り口で「はじめの会」を行う。 - 森林組合の方の紹介と挨拶 - 代表生徒から活動の目標と約束確認 - 安全面からの服装チェック	- 交通安全に気を付け移動するよう誘導する。 - 実際に目で見て、手足で触れることを通して森林の働きを実感するという目標と安全に関わる約束を代表者と打ち合わせておく。	ヘルメット、手袋を着用する。
3 先輩が整備した看板や山道・植林後網で保護された若木を見学し、どのような作業をしたのか、どのような苦労があったのかを想像する。	- 蛭対策で靴下の口をズボンの外側にしているか確認する。 - 看板が立つゴツゴツとした山の斜面や鹿等の動物から苗木を守るための網の設置等に着目させることで、苦労や工夫を考えさせる。	蛭対策用品の準備

4 倒木の解体作業を見学し、間伐作業を体験する。 5 森林組合の方から、森林の防災に関わる働きについて説明を聞く。 ・地中に広がる根 →洪水の調整，土砂流出・崩壊防止 ・地表の葉 →降雨による土壌の流出防止 ・成長した樹木 →土石の流出を軽減 ※健全な森林づくりには間伐・下草刈りの必要性（手間が必要）	・のこぎりの刃や木っ端，不安定な足場等安全面に十分注意するよう促す。 ・防災に関する気付きが得られるよう根や落葉が果たす役割について問う。 ・「一つめのポイントは何か？」と生徒に問うことで，大切な働きを生徒が確実に理解できるようにする。	
6 入り口に戻り「終わりの会」を行う。 ・森林組合の方へのお礼 ・学んだことや感想の発表 7 学校に戻り，学習のまとめを書く。	・自分の生活と結び付けた考えの生徒の良さを価値付け，全体に広げる。 ・森林組合の方の説明からどのようなことを学んだかを問い，森林には防災に関わる役割があることを想起させる。（もし，森林がなかったら自分たちの生活はどのようなになるかを問い，自分たちの生活に密接に結び付いていることを考えさせる） 【防災教育の観点】 ○防災に関わる森林の役割に気付き，これからの生活の中で自然を大切に守り，育てようとする気持ちをもつことができる。	・感想用紙

5 評価規準

生活への関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
防災のために，これからの生活の中で自然を大切に守り，育てようとする気持ちをもつことができる。	防災に関わる森林の役割を見付け，発表したり，感想カードに記入したりすることができる。	森林で作業し，森林組合の方から森林の働きについて説明を聞くことを通して，防災に関わる森林の役割に気付くことができる。



1 単元名

「親子 災害図上訓練（D I G）」

2 ねらい

○住んでいる地域で災害が発生した場合を想定して，土砂災害や水害等の危険区域の情報及び避難や防災に必要な情報や知識を親子で共有することで，災害時の対応を考えることができる。

【防災教育の観点】

○地域に応じて発生しやすい災害があり，その対策について，家族で日頃から話し合うことを通して，災害に備えることの必要性に気付くことができる。

3 指導計画

（１）事前指導

・各地域において過去に災害が起きた場所と状況を調べてくるよう課題を出す。

（２）本時の指導

・調べてきた地域の災害について情報交流し，親子で防災マップを作る。

（３）事後指導

・地区ごとに作成した防災マップを示しながら，今後どのようなことに心掛けて生活するとよいかを学級で意見交換し，安全な生活への意識や態度を高める。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 親子ペアとなり地域ごとに指定されたテーブルにつく。	・事前に割り振ってあるテーブルに生徒が保護者を誘導するよう事前に指導しておく。 ・参加できない保護者の席には学年所属の職員が座る。	・地区ごとの地図（作製後，掲示することを考慮した大きさ） ・プロジェクター ・セロハンテープ
2 土砂災害の種類・地域の防災情報を確かめる。 <u>STEP 0</u> 災害の種類を知る。 ・災害…気象現象，生物，天文，事故人災，地質現象 等 ・土砂災害の3つのパターン 土石流，地滑り，がけ崩れ <u>STEP 1</u> マジックで地図に描き込む ・河川，池，水路…水色 ・主要道路…茶色，橋は○で囲む ・公園，空き地，広場…緑色	・「災害」にはどんなものがあるか問い，大きく5つに分類できることを押さえる。 ・この地区では，土砂災害の可能性が高いことが考えられることを押さえる。 ・作業の進み具合を見ながら，画像を変えるスピードを調整する。	※テーブルごとに ・マジック 水色，茶色，緑色 ・シール（大小） 大3種類 小5種類 ・マジック 赤色，黄色，オレンジ色

<u>STEP 2</u> カラーシールを貼る ・役場、警察、公民館（桃大） ・学校、幼稚園、避難所、医療機関、福祉機関（緑大） ・消防署、消防車庫（茶大） ・消火栓、プール（赤小）・防火水槽（青小） ・食料日用品の販売店（金小） ・重機等を保有する企業（黄小） <u>STEP 3</u> マジックで地図に描き込む ・危険箇所（赤色） ・土砂災害警戒区域イエローゾーン（黄色の斜線を引き、周りを囲む） ・土砂災害特別警戒区域オレンジゾーン（オレンジで周りを囲む） <u>STEP 4</u> マジックで地図に描き込む。 ・過去に災害があった箇所（水色の斜線を引き、周りを囲む） <u>STEP 5</u> 過去の災害の状況を付箋に書き込む。 ・災害状況を付箋に書き込み、貼る。	・地区ごとの防災マップ（市役所から得た資料等） ・マジック 水色 ・付箋 【防災教育の観点】 ○地域に於いて発生しやすい災害があり、その災害に於いた対策について、家族で日頃から話し合うことを通して災害に備えることの必要性に気付くことができる。 ・災害の大きさや被害の規模等、保護者からの情報も付箋に書き込ませる。	・感想用紙（生徒＆保護者用）
3 防災マップを作成する活動を通して学んだこと、考えたこと、感じたこと等の意見交流をする。	・保護者にも意図的に指名して感想を聞く。 ・授業後、保護者には感想を書いていただくよう依頼する。	

5 評価規準

生活への関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
自分たちの地域における防災について、親子で対策を考え、日頃から備えておこうとする気持ちをもつことができる。	災害図上訓練（DIG）を通して、身近で発生する災害の危険箇所や避難場所、防災設備等について自分たちで考え、まとめ、意見交流をすることができる。	地域で発生しやすい災害があり、その災害に於いた対策について、家族で日頃から話し合うことを通して備えることの必要性に気付くことができる。

6 その他

- ・参考資料等

災害図上訓練（DIG）指導者の手引き

<http://www.pref.gifu.lg.jp/bosai-bohan/bosai/bosaitaisei/jishu-soshiki/dig.data/24tebiki.pdf>

1 活動名

「防災宿泊研修」 場所：体育館，教室，防災施設

2 ねらい

○防災宿泊研修の活動を通して，一人一人が『自分も学年や学級のメンバーの一人なのだ』という所属感を育むことができる。

○避難所体験を通して，避難所でどんな活動ができるのか，どんな不便さがあるのかを知り，防災リーダーとしての態度を育てる。

【防災教育の観点】

○避難所生活の体験をすることで普段通りの生活のよさを再認識するとともに，万が一の時の心構えをもつことができる。

3 指導計画

（1）事前指導

- ・過去の自然災害の被害や防災に関わる専門家の話などをVTRで視聴し，防災についての学習の意義を学ぶ。
- ・学校施設の配置などを知り，災害発生時の避難の仕方について図上訓練を行う。
- ・宿泊研修について用意するもの，活動内容などのガイダンスを行う。

（2）本時の指導（2日間）

＜防災に関わる活動＞

- ・通学路を含む校区の状況を知るためのオリエンテーリングを行う。
- ・校区の地図を使って災害図上訓練（DIG）を行う。
- ・非常時対応給食，炊き出しによる夕食，配給のパンの朝食を食べる。
- ・被災体験者を講師として避難所運営にかかわる講話を聴く。
- ・アルミ缶で簡易コンロを作るクラフトワークを行う。
- ・停電を想定して懐中電灯の明かりのみで学級活動を行う。
- ・ダンボールの間仕切りを使って避難所設営を行い，宿泊する。
- ・ミニ防災オリンピックを行う。
- ・本校の防災施設を見学し，使い方等の説明を受ける。

（3）事後指導

- ・取組の反省を記入，交流。
- ・集会，壁新聞（通信）発行による価値付け。

4 展開

学習内容・学習活動		資料等
－1日目－		
8：15	はじめの会	・体育館にて ・備蓄倉庫チェックポイント ・交通指導 ・地図、ペン、ステッカー等の準備 ・各教室の使用
8：30	防災オリエンテーリング（生活班ごと） ・校区の状況を歩きながら確認する	
11：00	災害図上訓練①（生活班ごとに体育館で一斉に） ・校区の状況を図上で確認する	
12：15	非常時対応給食（手作りおにぎり・豚汁・魚肉ソーセージ・クラッカー・お茶）	
13：15	災害図上訓練②（班発表を中心に）	
14：30	講演会（全校生徒・職員）	
16：45	段ボールによる避難所設営	
17：30	避難所での炊き出しを想定した夕食 （アルファ米・レトルトカレー）	
18：40	学級対抗大声校歌大会	
19：30	夜の学級会 ①クラフト（アルミ缶の簡易コンロ作り） ②仲間のよさ発表（停電を想定し懐中電灯のみ）	
20：40	1日目の反省と就寝準備（寝袋、キャンプマット各自持参）	・講演会準備 ・男女間の仕切り ・お湯の準備 ・体育館にて ・ // ・各教室にて ・道具の安全管理 ・健康状態確認
22：00	消灯	
－2日目－		
6：30	起床 洗面等	・校舎手洗い場 ・体育館にて ・運動場 （雨天時は体育館） ・①②③を学級ごとに回る。
7：00	朝食（パンの配給）	
8：00	避難所清掃（段ボールの片付け、整頓）	
8：30	学級対抗大縄大会	
9：30	ミニ防災オリンピック ①防災クイズ ②防災伝言リレー ③バケツリレー	
10：30	防災施設学習会 ①備蓄倉庫 ②シャワー室 ③マンホールトイレ	
11：30	終わりの会	
12：30	給食（通常メニュー）	
13：15	下校	

【防災教育の観点】
○避難所生活の体験をすることで普段通りの生活の良さを再認識するとともに、万が一の時の心構えをもつことができる。

【防災教育の観点】
○避難所生活の体験をすることで普段通りの生活の良さを再認識するとともに、万が一の時の心構えをもつことができる。

5 評価規準

生活への関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
避難所生活の体験をすることで普段通りの生活の良さを再認識するとともに、万が一の時の心構えをもつことができている。	決められた役割に応じ、自ら考え、仲間の人のために行動することができている。	避難所体験を通して、避難所でどんな活動ができるのか、どんな不便さがあるのか気付いている。

1 活動名

「市の総合防災訓練」 場所：中学校運動場，体育館，防災施設

2 ねらい

○学校が避難所となった際，学校にある防災設備の利用方法について地域の住民の方に理解していただくために，市の総合防災訓練に参加し，生徒が説明したり，具体的に支援したりすることができる。

○自主的に防災ボランティアとして活動に参加し，地域の防災リーダーとしての心構えをもつことができる。

【防災教育の観点】

○活動を通して，自分たちが地域の「防災リーダー」として活動するための具体的な方法を知ることができる。

3 指導計画

（１）事前の取組

- ・市の総合防災訓練への参加

【概要】

第一次避難場所であった複数の地区から集団で第二次避難場所である本校に避難してくる。その数およそ600名。

【工夫内容】

- ・本校へ避難する訓練をするだけではなく，本校の防災設備を見学し，利用方法について知ってもらうために，生徒が説明する活動を取り入れた。突然避難する状況が発生した際，地域の住民が自ら防災設備を使うことができるよう使用方法を理解してもらおうと考えた。
- ・生徒一人一人を地域の「防災リーダー」として育てていきたいという願いがあるため，生徒たちが地域の方に対して説明できるよう事前の指導を行った。中学生が「防災リーダー」となって，地域の方々の避難や避難所での生活を支えてほしいという願いを伝える。
- ・学校近隣の地域の住民に対して本校の防災設備の状況や利用方法を説明するボランティアを募集し，それらの生徒を説明する必要がある校内の防災設備ごとに割り振り，その場防災施設について説明できるように練習する。

（２）当日の指導

- ①午前8時に学校へ集合し，打合せ，準備を行う。
- ②午前9時に放送される市の防災無線のサイレンに合わせて地震発生時初期動作（SHAKE OUT: 1. 姿勢を低く 2. 頭を守って 3. しっかりつかまる）の実施
- ③順々に集団避難してきた地域の住民に対して各防災設備で呼びかけ，集まったら，それぞれの防災施設について説明し，実際に体験をしてもらう。

(3) 事後指導

- ・取組の反省を記入，交流
- ・集会，壁新聞（通信）発行による価値付け

4 展開

学習内容・活動		教師の指導
8:00	・はじめの会（挨拶，区長会長から激励）	・運動場
8:15	・防災設備ごとに説明する準備，リハーサル	・準備の援助
9:00	・市防災無線による訓練の放送 「シェイクアウト」1分間 運動場：倒れてくるものがない所で姿勢を低くし，頭を保護する。 体育館：照明など落ちてくる可能性のあるものを避け，低い姿勢で頭を保護する。	・同様の動作をとる。
9:15	・各地区より第二次避難場所として，中学校へ避難をしてくる。 ・受付を済ませた地区から順に各防災設備の見学に移る。 ※スタンプリレー方式で移動する。 ・生徒の役割分担：設備の説明係，呼び込み係，受付（スタンプ）係 ①飲料水タンク：概要や仕組みの説明 ②手動ポンプ：使用法の説明。実際に井戸水を飲んでもらう。 ③ベンチ型コンロ：解体して，コンロとして使える形にして示す。 ④シャワー室：実際に水を出して使い方を示す。 ⑤マンホールトイレ：組み立て方の説明。使用法の説明。 ⑥段ボール間仕切り：組み立て方の説明。実際に組み立て解体してもらう。 ⑦防災備蓄倉庫：備蓄されている物品の説明と使用法の説明。 ・全ての地区が防災設備の見学を終えたら終了。	・スタンプカード，スタンプの準備 ・担当での教師は各ブースで援助する。 【防災教育の観点】 ○活動を通して，自分たちが地域の「防災リーダー」として活動するための具体的な方法を知ることができる。
11:45	・終わりの会（挨拶 区長会長より感謝の言葉）	・ボランティア証の配付をする。
12:00		

5 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・実践	知識・理解
地域の人に対して，災害時の防災リーダーとしての自覚をもって関わろうとしている。	決められた役割に応じて，自ら考え，地域の人のために行動している。	活動を通して，自分たちが地域の「防災リーダー」として活動するための具体的な方法について理解している。

避難情報に注意しましょう！！



災害によって、危険が迫った場合、住民の安全を確保するため、市町村長から「避難準備情報」や「避難勧告」、「避難指示」が発令される場合があります。
(市町村の広報車や、防災無線などによって知らされます。)

これらの違いをあらかじめ理解しておくことが「自らの身を守る」ことにつながります。
これらが出されたときは、速やかに避難をしましょう。

また、危険を感じたときは市町村からの避難情報を待つことなく、自主的に避難するよう心がけましょう。

発令される種類としては、高齢者など避難に時間のかかる方に早めの避難を促す「避難準備情報」、通常の避難行動ができる方に避難を促す「避難勧告」、危険が切迫し、早急な避難を促す「避難指示」の3段階に分かれています。一部の報道機関では、緊急時において「避難命令」という言葉を使用していますが、市町村長は、「避難準備情報」「避難勧告」「避難指示」のみ発令し、「避難命令」を使用しませんので注意してください。

避難勧告等が発令された場合には、早めに避難所など安全な場所への避難を心がけましょう。
(※参考：岐阜県防災課HPより)

避難準備情報	・災害時要援護者など、特に避難行動に時間を要する人が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が高まった状況 <発令されたら・・・> ・避難の準備を始めてください。 ・災害時要援護者など、特に避難行動に時間を要する人は、避難行動を開始してください。 ・避難支援者は支援行動を開始してください。	いずれも市町村から発令されます。
避難勧告	・通常の避難行動ができる人が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況 <発令されたら・・・> ・避難所へ避難してください。	
避難指示	・前兆現象の発生や、現在の切迫した状況から、人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況 ・避難勧告より状況が悪化し、緊急に避難が必要な状況 <発令されたら・・・> ・避難中の方は、避難行動をただちに完了してください。 ・未だ避難していない対象者は、ただちに避難行動に移るとともに、そのいとまがない場合は生命を守る行動をしてください。	